

博物館からのお知らせ VOL.3

◆下前分館特別公開のご案内！



小泊地区の民俗資料を収蔵した下前分館(旧下前小学校)を、なかどまりまつり期間中、特別公開します。漁業・農業・林業・生活雑貨などの収蔵展示をおこなっているほか、彫刻家「田村進コーナー」や「山十二(秋元家)コーナー」をご覧になれます。なお駐車スペースが少ないので、車でご来館される方は「すくすく下前館」駐車場ほかをご利用ください。

公開日時：8月16日(木)
午前10時～午後3時

◆夏の企画展「静と動の協奏」刺子(シロシヨウ)

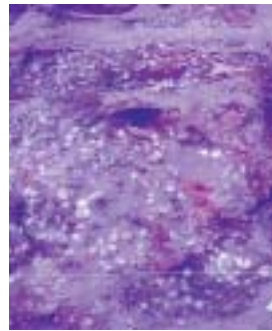
会期：9月9日(日)まで
休館日：毎週月・第4木曜日
入館料：一般二百円、高校・学生百円、小・中学生五十円



昨年年度に引き続き、小泊の歴史を語る会(柳澤良知会長)の協力を得て、塩釜と考えられる遺構の調査を行いました。今年度調査では、海水を煮て塩をとるための「土釜(塩釜)」ならびに海水を貯めておく「貯水槽」と考えられる遺構構造の一端が明らかとなりました。

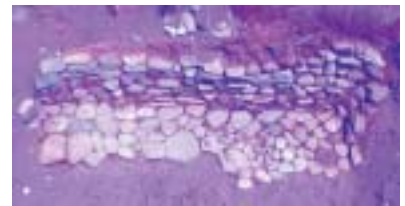


◆冬部(2)遺跡試掘調査速報



複数重なった土釜跡

「土釜」は、貝殻・河原石と海水を練り合わせたセメント状の石灰粘土で作られています。1基数層程度の大きさの「土釜」が複数重なって見つかっていることから、何度も作り替えられた様子がかがわれます。「貯水槽」は、大きな河原石



石で組まれた貯水槽跡

いました。

海側の部分が失われていますが、残された部分から八畳程度の大きさと推定されます。このほか海獣類と考えられる焼骨一体分が出土しました。



獸骨

製塩遺構の年代については「土釜」上層から出土した陶磁器から、江戸時代後期(19世紀前葉)以前の可能性が高まりました。このころ小泊を訪れた菅江真澄や松浦武四郎が見た冬部の塩釜は、まさしくこれらの遺構だったかも知れません。



出土陶磁器
構だったかも知れません。

戸籍の窓口

(6月届出分)

お誕生おめでとう

- 黒滝 和(男・充) 宮野沢
- 中村 輔孔(男・隆介) 薄市上
- 田中 絢登(男・大介) 豊島
- 福地 虎斗(男・真也) 温泉町

ご結婚おめでとう

- 米塚 誠司(福浦)
- 村上 章子(外ヶ浜町)
- 毛内 聖史(つがる市)
- 川島 沙織(田茂木)
- 田嶋 太一(七戸町)
- 松館 美那子(薄市上)
- 野宮 洋介(派立)
- 奈良岡 牧子(青森市)

お悔やみ申し上げます

- 横山 金雄 73 (向町上)
- 高山 末則 78 (田茂木)
- 山谷 テツ 71 (薄市下)
- 櫛引 昭男 56 (芦野)
- 三上 義貞 69 (下豊岡)
- 葛西 英弘 63 (薄市上)
- 新岡 キヨ 81 (福浦)
- 外崎 キナ 81 (富野)
- 白岩 嘉之 89 (福浦)
- 忠雄 69 (下前浜)

人のうごき

6月末現在(前月比)

人口	14,391人(-12)
男	6,868人(±0)
女	7,523人(-12)
世帯数	5,177戸(±0)
出生	4 / 死亡 11
転入	27 / 転出 31

記者のつぶやき

梅雨明けが発表され、暑い夏がやってきました。

今年、例年になく雨が少ない梅雨となりました。8月は、さまざまな地域で、たくさんの方が開催されます。中泊町でも、11日から16日にかけて、なかどまりまつりが開催されます。趣向を凝らした催し物が企画されており、多数のご参加を願っています。

さて、今月号から戸籍の窓口を裏表紙ではなく、中ページにしました。表紙と裏表紙は、4色刷ですが、中ページは2色刷りとなっております。紹介したいまちの話については、フルカラーの方が良いと考えました。慣れるまで見にくいかと思いますが、よろしく願います。

暑い日が続きますが、熱中症などに気をつけて、暑い夏をみんなで乗り切りましょう。

黒田 ぎぬ 84 (花丘町)
大西 節子 70 (上町)

第2回 ホタルまつり in なかどまり

7月14日、15日、ふるさと滝ノ沢砂防アイランドで、第2回ホタルまつり in なかどまりが開催されました。

気温はやや低かったものの、2日間で約1,000人が訪れ、飛び交うたくさんのホタルを見て歓声を上げていました。



オープニングセレモニー



ホタルの幼虫のえさとなるカワミナの放流も行いました。



出店にもたくさんの人だかり



ホタルもびっくりするほどのたくさんの人が訪れました。



ホタルが出るまで待ち遠しいな。



幻想的に飛び交うホタルのすがた(わかるかな!?)

